

杉並区農業委員会委員の公募に係る応募者の情報

応募者		
氏名	性別	年齢
山城 進	男	63
	職業	
	無職	
応募の理由		
<p>近くの農協が行うマルシェには多くのお客さんが集まり、消費者の地産地消に対する意識の高さや顔の見える生産者をつながりたいという意欲を感じます。</p> <p>その一方で、近所の生産緑地がマンション等になってしまう光景も数多く目にします。</p> <p>都市部、特に市街化区域内に対する国の農業振興策は農村部に劣後すること、農家の後継者難の実情などは職務経験を通じて理解していますが、食料安保や人口減少が大きな問題となっている現状において、このままでもいいのかという疑問を感じずにはいられません。</p> <p>そうした中、広報すぎなみで農業委員の募集を知り、小規模でも特色を活かした農業経営の維持・発展に不可欠な農地の持続的確保のお役に立てればと思い応募した次第です。</p>		
経歴		
年月	勤務先・役職等	
昭和60年～令和5年	日本政策金融公庫農林水産事業本部(旧農林漁業金融公庫)勤務 北海道支店、岡山支店(山陽3県担当)、東海支店(愛知県担当課長)、東京支店(支配人農林水産事業統轄)に勤務したほか、本店の企画室主任調査役、融資業務部農業課長、審査部審査課長、地域再生支援部長、審査部長などを歴任	
平成25年度	アグリビジネス投資育成(株) 非常勤取締役(兼職)	
平成26～27年度	中部森林管理局事業評価技術検討会 専門委員(審議会委員)	
農業経営の状況		
<p>(農業との関わり)</p> <p>私が勤務していた日本政策金融公庫農林水産事業本部(旧農林漁業金融公庫)は、スーパーL資金をはじめとした農林漁業分野に対する国の制度資金を融資する唯一の機関です。</p> <p>公庫における業務経験は、融資の現場で農林漁業者の方と接する支店勤務と融資制度の創設・改廃に係る財務省・農林水産省との折衝業務や大型地域プロジェクト対策等に係る審査・支援業務などを担当した本店勤務とが概ね半々です。</p> <p>支店勤務時には、個別の融資相談対応のみならず、スーパーL資金創設の頃には、担当エリアだった広島県庁の職員と同道して多くの市町村を回り、市町村の担当者や膝を交えながら農業経営基盤強化促進法に基づく基本構想の一部をなす「効率的かつ安定的な農業経営の基本的指標」づくりに取り組みました。</p> <p>また、東京支店農林水産事業統轄を務めていた平成26・27年度には東京都農業会議と連携した新規就農者や若手経営者のネットワークづくりに注力しました。</p> <p>本店勤務時には、全国農業会議所の担い手への農地集約化や担い手育成支援に係る検討会や中央畜産会の動産担保の有効活用に向けた検討などにも参画していました。</p> <p>資金制度の創設・改廃等を担当していた時は農林水産省の経営局や大臣官房の各課に日参し、農林漁業施策の展開に即した新たな金融支援措置の案出しなどについて、様々、意見交換を重ねました。その過程で都市農業担当部署と都市農業振興のための新たな制度融資の仕組みづくりを検討したこともあります(結局は都市計画法の用途地域区分が壁になり頓挫してしまいました)が…。</p>		
認定農業者の該当状況		
認定農業者ではない		

※記載内容は、応募申込書のとおりです。

応募者		
氏名	性別	年齢
新井 幸平	男	46
	職業	
	公務員	
応募の理由		
<p>農作物の栽培経験や子どもの農業体験への参加を通じて、農業が食の基盤であるだけでなく、環境保全や防災、地域交流など多面的な役割を担っていることを実感しました。都市化が進む中で、身近な農地を守り次世代へつないでいくことの重要性を強く感じています。これまでの経験と地域への関心を活かし、都市農業の理解促進と農地の適切な保全・活用に貢献したいと考え応募いたしました。</p>		
経歴		
年月	勤務先・役職等	
平成16年3月～現在まで	防衛省陸上自衛隊警務隊	
農業経営の状況		
<p>農地の所有はありませんが、これまで家庭菜園等を通じて、ナス、キュウリ、トマト、スイカ、梨などの栽培に携わってきました。作物ごとの生育環境の違いや、天候・水管理・土壌状態が収量や品質に大きく影響することを実体験として学び、安定した生産を維持することの難しさと重要性を実感しています。</p> <p>また、自身の子どもに杉並区内の農業体験へ参加させるなど、次世代に対して食の大切さや農業の役割を伝える機会を大切にしてきました。都市部における農地は、食育や環境保全、防災空間の確保、地域コミュニティ形成の場として重要な役割を担っていると認識しています。</p> <p>今後は、都市農業の持続可能性と地域との共生の視点を踏まえ、農地の保全と有効活用のあり方について理解を深めながら、地域社会にとって価値ある農地利用の推進に貢献していきたいと考えています。</p>		
認定農業者の該当状況		
認定農業者ではない		

※記載内容は、応募申込書のとおりです。

応募者		
氏名	性別	年齢
鶴田 仁	男	67
	職業	
	法律事務所等の顧問	
応募の理由		
<p>農林水産省に勤務していたこともあり、日本の農業について常々考えてきました。今回、広報すぎなみで農業委員会委員の募集を知り、小生の経験を基に、何かお役に立てるのではと考え、応募致しました。</p>		
経歴		
年月	勤務先・役職等	
昭和58年～平成30年	大蔵省・財務省勤務	
平成6年～平成9年	外務省に出向	
平成22年～平成25年	農林水産省に出向	
平成27年～平成29年	長崎大学に出向(経済学部教授)	
平成29年～	経済産業研究所 コンサルティングフェロー	
平成31年～	西村あさひ法律事務所 顧問	
農業経営の状況		
<p>農地は所有しておりません。 農業との関わりとしては、農林水産省勤務時に、食料安全保障、TPP交渉などを担当し、高齢化対応、農業の六次産業化、輸出拡大、グリーン・ツーリズムなどの施策に取り組んだこと、大蔵省・財務省勤務時には、関税政策を担当し、日本の農業の課題等を直接農家の方々からもヒアリングしていたこと、などが挙げられます。</p>		
認定農業者の該当状況		
認定農業者ではない		

※記載内容は、応募申込書のとおりです。

応募者		
氏名	性別	年齢
東 正則	男	82
	職業	
	無職	
応募の理由		
<p>近年の都市化による都市農地の消滅に大きな疑問を抱いておりました。都市化により益々過密化していくに従って、防災等に対応できず危険な状態になっていると思います。もう都市化の時代は終り農地は貴重な都市資源になっていると思います。</p> <p>杉並区の残り少ない農地の保全に向けて、微力ながら農業のある街づくりのお役に立ちたいと願っています。</p> <p>(別紙内容)</p> <p>私は、30年ほど前から、東京都農業会議のアグリタウン研究会で東京都の農業について、勉強させていただきました。</p> <p>後継者不足、環境悪化等の下で苦労しながら、地産地消・農福連携等で頑張っている農家も見てきました。</p> <p>杉並区においても、是非とも、農地を保全し、農地のある魅力ある都市を維持することに貢献できればと思います。</p>		
経歴		
<p>(別紙内容)</p> <p>定年退職まで、工学院大学工学部建築学科で、都市計画でなく農村計画を勉強し、農水省の委託研究の委員等をして、全国の農村を勉強し、また東京都や神奈川県で、都市計画及び農政部の委員を拝命し、勉強させていただくことができました。</p> <p>また、ドイツのクラインガルテンや台湾のレジャー農園の勉強もしました。</p> <p>今、東京都農業会議にご指導いただき、都市農地貸借円滑化法の勉強中です。</p> <p>このような知見を、杉並区でもお役に立てれば幸いです。</p>		
農業経営の状況		
農業はしておりません。		
認定農業者の該当状況		
認定農業者ではない		

※記載内容は、応募申込書のとおりです。

応募者		
氏名	性別	年齢
津田 龍美	男	73
	職業	
	無職	
応募の理由		
<p>杉並の農業は典型的な都市型農業といえます。大都会新宿や渋谷から近く、その通勤者が多く住んでいます。そんな中農家の方々はマンション、アパートに囲まれ、住民と付き合わざるをえません。農業は土を耕すことが基本であり、土埃が舞います。場合によっては農薬を散布せざるをえません。農家にとっては元々自分たちが住んでいたところに、あとから彼らが入って来たのですが、生活環境を乱される農業は邪魔者扱いされる場合があります。一方農家は生活のため、または祖先から受け継いだ土地を有効活用するため、集約的に野菜や花卉等を栽培し、住民に供給しています。</p> <p>私は大学卒業以来、農業団体で働き、日本全国津々浦々の農業を観てまいりました。また海外経験も長く、海外から見た日本農業についても分かるようになりました。このような知見を生かして、杉並の農業者にアドバイスし、また一般市民との架け橋になればと思います。</p>		
経歴		
年月	勤務先・役職等	
1977年～2003年	全国農業協同組合連合会(JA全農)勤務	
2003年～2013年	国際協力機構(JICA) 専門家	
2014年～2017年	立教大学(セカンドステージ大学)	
農業経営の状況		
<p>JA全農においては、主に農業経営、エンジニアとして、地域農協を指導 JICAにおいては、主に開発途上国の農業調査</p>		
認定農業者の該当状況		
認定農業者ではない		

※記載内容は、応募申込書のとおりです。

応募者		
氏名	性別	年齢
柄本 三代子	女	60
	職業	
	東京国際大学人間社会学部 教授	
応募の理由		
<p>私はこれまで、食と農に関する研究に取り組むとともに、福島での農業支援活動やイギリス都市部の市民農園(Allotment)の調査などを通じ、農が地域社会や人々の暮らしに果たす役割について実践的に現場で学んできました。都市農業は、地域の食や環境、コミュニティ、教育力を支える重要な基盤であり、都市の中で農地を守り育ててきた杉並区においてもその意義は大きいと考えます。これまでの知見と経験を生かし、杉並区の都市農業の発展と都市と地方をつなぐ取り組みに貢献したいと考え応募いたしました。</p>		
経歴		
年月	勤務先・役職等	
平成17年4月～平成22年3月	東京国際大学専任講師	
平成22年4月～平成30年3月	東京国際大学准教授	
平成30年4月～	東京国際大学教授	
農業経営の状況		
<p>私は研究者として学術的背景を有するだけでなく、日本およびイギリスの農業現場で長年実際に土に触れ、生産者とともに農作業を重ねてきました。一例として、足立区やマンチェスターの都市農業公園での長期ボランティア、福島県喜多方市の里山での田植え・稲刈り・堰さらい、二本松市での援農など、実践的な経験があります。加えて、日本有機農業研究会や日本有機農業学会、東京都有機農業研究会の活動を通じ、有機農家や地域とのつながりを深めてきました。これら圃場での経験を通して、都市と地方双方の農業現場に関する実践的な知見と課題理解を有していることが私の強みです。</p>		
認定農業者の該当状況		
認定農業者ではない		

※記載内容は、応募申込書のとおりです。